

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 17人

② 算数 17人

5 留意事項

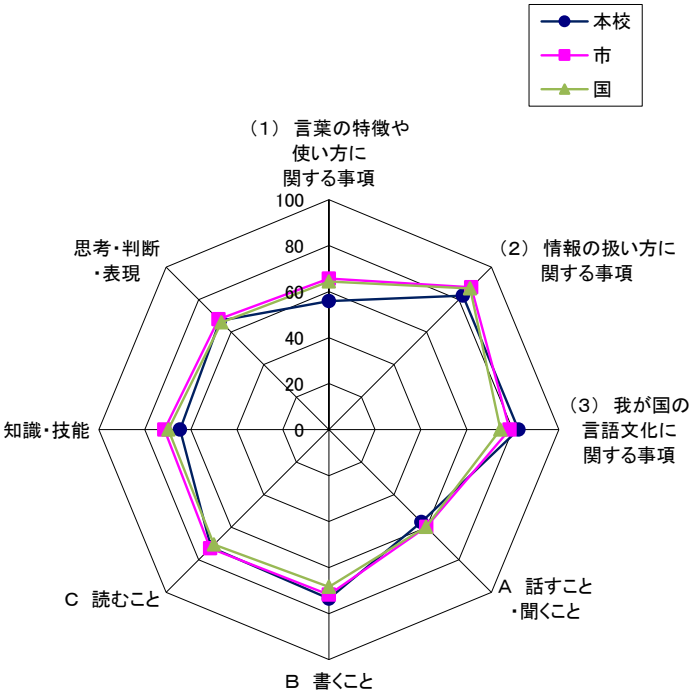
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	55.9	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	82.4	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.4	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	56.9	59.9	59.8
	B 書くこと	73.5	71.8	68.4
	C 読むこと	72.5	72.9	70.7
観点	知識・技能	64.7	71.5	69.8
	思考・判断・表現	66.9	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

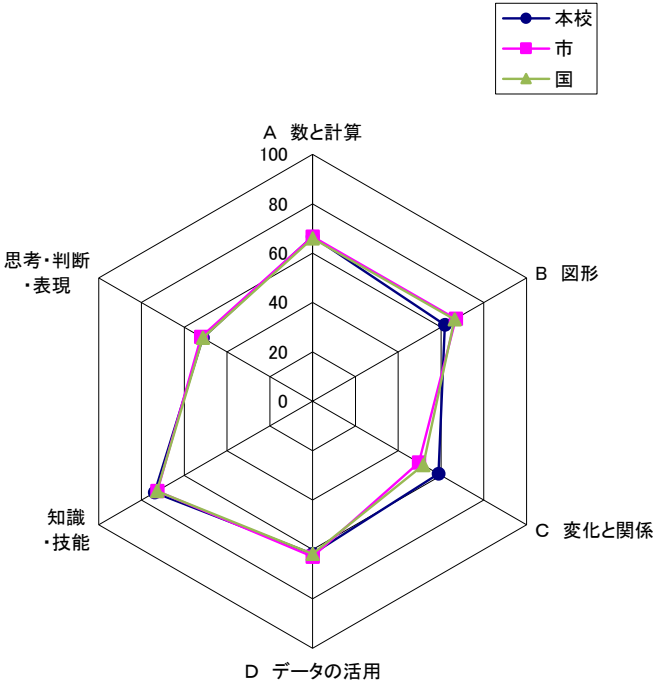
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は市や全国より低い。 ○話し言葉と書き言葉についての設問の正答率が全国の平均正答率よりやや高い。 ●漢字の読み書き問題については、正答率が高い設問も低い設問もあり、ばらつきが見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習漢字に関しては、家庭学習等で漢字練習に取り組ませたり、小テストを行ったりして理解を深められるようにする。また、新出漢字を意図的に使って短作文を書かせるなどして、文中で正しく使えるように指導していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は市や全国より低い。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問では課題が見られた。	・自分の考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりする際に、図を用いて言葉と言葉をつないだり、つないだ言葉の関係性について考えたりできるような学習活動を設けるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市や全国より高い。 ○日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気が付くことができるかどうかをみる設問では、正答率が全国の平均より高い。	・現在取り組んでいる読書記録カード(よむよむ貯金)や読み聞かせ、家読の推進などを継続していくことで、読書に親しむ場を多く設け、推進していくことで、読書の意義について強く実感できるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は市や全国より低い。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる設問では、正答率が全国の平均より高い。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる設問では、正答率が全国の平均より低い。	・意見を発表したりプレゼンテーションを行ったりする学習で、普段から話合いの後に学んだことや自分の考えなどを伝え合う機会を設けるようにする。また、伝え合う際には、聞き手が求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えながら伝えることができるように指導していく。
B 書くこと	平均正答率は市や全国より高い。 ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかについての正答率が全国の平均より高い。	・書くことに関しては、日記指導や意見文など、自分の考えを効果的に書く指導をしていく。その際に、考えの根拠や理由をもとに意見を述べることを意識させたり、相手意識をもたせたりすることで、説得力のある文章を書くことができるように指導していく。 ・書いたものを、お互いに読み合う活動を取り入れ、様々な意見文や感想文に触れられるようにする。
C 読むこと	平均正答率は市とほぼ同じで、全国より高い。 ○人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる設問では、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ●物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる設問の正答率が、全国の平均より低い。	・読書の推進や記録の蓄積により、様々な文章にも触れることができていると考えられるので、今後も多様な分野の文章に触れることを推奨していく。 ・国語の授業の中で、複数の叙述を結び付け、それらを基に物語の全体像を具体的に想像したり、全体像を捉えた上で自分の考えを明らかにし、文章にまとめたりするなどの学習活動を積極的に取り入れていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.7	66.7	66.0
	B 図形	61.8	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	58.8	49.6	51.7
	D データの活用	61.8	62.9	61.8
観点	知識・技能	73.9	72.6	72.8
	思考・判断・表現	51.3	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は全国よりやや高く、市と同じ。 ○除数が小数となる除法の計算をする設問では、国の平均正答率を上回った。 ●数量の関係を口を用いた式で表す設問では、平均正答率は88.2%と高いものの、国の平均を下回った。 ●表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する設問では、600以上となる式を正しく選べた割合が53%と、国の平均と比べ低い。	・朝の学習や宿題等を通して、継続して計算練習に取り組ませ、整数や小数、分数の時間では、問題場面を線分図で表し、それをもとに立式するという流れで繰り返し指導を行うことで、数量関係を理解し、場面に合わせて正しい式が立てられるようにする。
B 図形	平均正答率は市や全国より低い。 ○作成途中の直方体の見取図について正しい辺を選択する設問では、平均正答率が82.4%と他の設問に比べ高い。 ●球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積を求める設問では、平均正答率が29.4%と他の設問より大きく下回り、課題が見られる。 ●角柱の底面や側面に着目し五角形の面の数について説明する設問では、国の平均正答率を7ポイント近く下回った。	・公式を活用した問題演習を定期的に行い、体積の求め方について復習の機会を設定する。 ・実際の図をもとに、直径や半径、底面や側面など図形に関わる言葉について復習する機会を設定し、図形の構成についてより確実な定着を図る。
C 変化と関係	平均正答率は市や全国より高い。 ○道のりが等しく、かかった時間が異なる2人の速さについて比べる設問では、国の平均正答率を大きく上回った。 ●上記の設問において、時間に着目して速い方を正しく選ぶことはできているが、その理由を必要な言葉や式を用いて説明することには課題が見られる。	・日常生活の場面と結び付けながら、「速さ」「時間」「道のり」の関係やそれぞれの求め方を復習することで、速さの内容のさらなる定着を図る。 ・各単元後半の活用の場面では、数値や式などの根拠を明確にして自分の考えを説明する活動を取り入れていく。
D データの活用	平均正答率は市よりやや低く、全国と同じ。 ○円グラフの特徴を理解し、正しく割合を読み取ることができている。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に合わせて説明する設問では、条件が足りない記述が多く、国の平均正答率を下回った。 ●表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する設問では、国の平均正答率を下回った。考えの根拠として計算を使うことへの課題が見られる。	・表やグラフを扱う場面では、何が分かったか、どこに注目したかをそれぞれ全体で共有する機会を設け、自分の考えとその根拠が結び付けられるように指導する。 ・他教科でも、グラフから分かったことを基に自分の考えを説明する活動を設定し、必要なデータの特徴や傾向を読みとり活用する力の育成を図る。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「算数の勉強は好きか」を問う質問に肯定的回答をした児童の割合は、70.6%で、全国の割合を9ポイント以上上回っている。また、「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」という質問に肯定的回答をした児童の割合は、82.3%で、全国の割合を16ポイント以上上回っている。さらに、「算数の授業で学んだことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に肯定的回答をした児童の割合は、88.2%で、全国の割合を8ポイント以上上回っている。児童が算数の課題解決に向けて意欲的に取り組むことは、本校が算数に力を入れ指導してきた成果だと考えられる。今後も、本校独自の取り組みである「がっちりタイム」(基礎学力の定着)で学習内容の定着を図るとともに、実態に応じた学習形態を取り入れ、一人一人に応じたきめ細やかな指導を行い、生活の中で生きて働く知識の習得を支援していく。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に「当てはまる」と回答した児童の割合は58.8%と全国の割合を26ポイント以上上回っている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に「当てはまる」と回答した児童の割合は58.8%と、全国の割合を11ポイント以上上回る結果となった。児童が課題解決へ向け、意欲的に取り組んだり、話し合いで自分の考えを深めたり広げたりすることができているのは、学級会や児童会活動で議題解決に向けて話し合う力を養ってきたからだと考えられる。この力は特別活動だけではなく全ての教科の学習に通じるものがあるため、引き続き学級会や児童会活動に力を入れると共に、他の教科でも児童一人一人の考えを尊重しながら授業を展開し、児童が主体的に学習に取り組めるようにしていく。

●「新聞を読んでいますか」という質問に肯定的回答をした児童の割合は、0%だった。家庭で新聞を購読していても、それに手を出さず読もうとしていない状況も多くなっていると考えられる。学校が購読している小学生新聞を各教科の教材として用いたり、読書活動の一環として新聞を読んだりすることで、児童の新聞への興味関心を高めていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る取組	朝の活動において「がっちり学習」として、全学年2人体制で、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む活動を実施している。また、授業においても、前学年の内容を振り返り、定着が図れるようにしている。	算数の知識・技能、思考・判断・表現の観点別の正答率が、全国の平均正答率を上回った。国語の思考・判断・表現の観点別の正答率が、全国の平均正答率を上回った。
家庭学習の習慣化に向けた取組	3～6年生では家庭学習ノートを用いた自主学習を学年に応じた目標時間取り組むように指導している。また、年に2回「家庭学習強化週間」を全学年実施して、家庭との連携を図っている。	自ら学習に取り組む態度に関わる「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」の設問で肯定的な回答した児童の割合は全国の平均を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
表から必要な数値を読み取って式に表したり、図形の性質について理解したりすることに課題が見られた。	基礎的・基本的な学習内容の定着とそれに基づく知識の理解の質を高める取組	・朝の活動において、宮子学カステップアップシート等を活用した復習に取り組み、学習内容の定着を図る。その際に、全校で同じ領域に取り組む機会を設け、重点的に復習できるようにする。 ・立式の意味を考えたり、授業内容を日常生活と結びつけたりするなどして、より深い理解につなげられるようにする。